

The Higo Foundation for Promotion of Medical Education and Research

肥後医育ニューズレター

(題字 元理事長 徳臣晴比古)

発行所 公益財団法人肥後医育振興会
 〒860-0811 熊本市中央区本荘2丁目2番1号
 TEL・FAX (096) 373-5425
 ホームページ <http://www.119higo.com/>
 発行人 理事長 西 勝英 編集人 中村 公俊
 発行所 ㈱かもめ印刷 TEL (096) 279-3440



楷樹 (山崎記念館前)

理事長挨拶

理事長 西 勝英



公益財団法人「肥後医育振興会」

は本年度をもちまして創立二十七年を迎えることになりました。創立以来、永きに渡りご援助、支援していただきました皆様深く感謝いたしますと共に、今後ともご指導、ご鞭撻のほどよろしくお願いいたします。

本財団は熊本大学医学部創立百周年を記念いたしまして、熊本における医学研究、医療の充実、市民への正しい医学情報を提供することを目的として発足いたしました。発足当時、大学は改革の中にあり、大学医学部としての在り方に大きな期待が寄せられていた時期でもあり、諸先進国では

大学の運営に大きな役割を果たしている「財団」を模範に設立された組織であります。このような財団は大学運営に大きな財政的寄与と社会的貢献が期待されているところであります。

一方、公益財団法人の公共事業として熊本県民に対する正しい医学情報提供を目的に、株式会社熊本日日新聞社、一般財団法人化学及血清療法研究所との共催で開催しています「肥後医育塾」は七十五回を重ね、県民に対してメディアを通じての啓蒙に大いに寄与しているものと自負しています。此の二十七年にわたる多くの情報を提供していただいた全国の医学・医療関係者並びに熊本地域の医療関係者による援助の賜物と感謝して

います。
 二〇一九年以来コロナウイルス感染症蔓延の為当財団と

しましても十分な活動はできませんでしたが、「肥後医育塾」の開催にあたり、ビデオ収録によるユーチューブ発信により、多くの聴衆のアクセスがあり、デジタル・メディアを通じても新しい医学・医療情報発信の手段を試みるこ

いはそれ以下であり、許容の範囲であると思います。今回のコロナウイルス感染症の分類を季節インフルエンザ同等の第五分類へ見なおす時期に来ているのではないのでしょうか。これによりいたずらに恐怖を煽るメディアやいわゆる「感染症専門家」の言葉の呪縛から解放されるものと思います。しかし、今後新たな感染症の出現にも十分な備えが必要な事は待ちません。

二〇二二年の夏に向かい、コロナウイルス感染症患者数増加の第七波を迎えています。幸い、感染者の増加にも関わらず重症者、死者は増加しておらず、政府は敢えて行動制限などの緊縮政策を採らず、

医学・医療関連の当公益財団法人としても正しい科学的情報の発信と啓発に努めなければならぬと考えております。今後とも、皆様方のご支援、ご鞭撻をお願いいたします。

感染防止と経済活動との共存を図る政策を提言しています。(二〇二二年七月十四日現在)
 高齢者医療の現場では、特にコロナウイルス感染による重症化を心配していましたが、これまで三年間の感染状況の趨勢も見ますと、ほぼ季節性のインフルエンザと同等ある

